

形容詞「かたい」の意味

——メトニミーとフレームの観点から——

初山 洋介

1. はじめに

本稿では、「かたい」という語の意味のうち、主に初山（1994）で（十分に）扱えなかった意味について考察する。2節では、「かたい」の分析の前提となる概念である「メトニミー」および「フレーム（に基づくメトニミー）」について確認する。3節では、「かたい」の7つの意味を記述し、意味拡張はいずれもメトニミーに基づくことを示す。さらに、7つの意味は2つのグループに分けられることを示し（プロトタイプの意味はどちらのグループにも属する）、それぞれのグループの意味の基盤となるフレームを提案する。そのうえで、各意味は、各フレーム内の異なる要素を焦点化したものと考えられることを示す。4節では、本稿のまとめと今後の課題について簡単に述べる。

2. メトニミーとフレーム

本節では、本稿での「かたい」の分析の前提となるメトニミーとフレームについて確認する。まず、佐藤（1978 = 1992）等を踏まえて、メトニミーを以下のように定義する。

- (a) メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。（初山（2002: 76））

以下、「かたい」における意味拡張と関連の深いメトニミーの例を少し挙げる。⁽¹⁾ まず、上記の定義の「二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性」に基づくメトニミーに含まれるものとして、2つの出来事が時間的に同時に生じることに基づく例を見る。「この問題を前にして頭を抱えてしまった」における「頭を抱える」は、〈困り果てる〉⁽²⁾ といった意味である。「頭を抱える」という表現でこのような意味を表せるのは、我々は困り果てるという精神状態の時に、頭を抱えるという動作をする場合があるからである。つまり、〈困り果てる〉という精神状態と〈頭を抱える〉という動作が同時に生じることに基づき、本来は動作を表す「頭を抱える」という表現で、〈困り果てる〉という意味も表せるわけである。同様に、本来は動作を表すが、同時に生じる精神状態も表せる

表現として、「彼の提案にはみんなが首をかしげた (→〈疑問を感じる〉)」、「全員無事だという知らせを聞いて、胸をなでおろした (→〈安心する〉)」等がある。

次に、2つの出来事が原因と結果の関係にあることに基づくメトニミーの例を取り上げる。「Aさんは目に見えて上達した」における「目に見えて」という表現は、本来は〈視覚で捉えられる〉ことを表すが、ここでは〈はっきりとわかるほど〉という意味である。「目に見えて」がこのような意味を表せるのは、視覚で捉えられたのであれば、はっきりとわかると考えられるからである。つまり、〈視覚で捉えられる〉ことが原因であり、〈はっきりとわかる〉ことが結果であるという関係にあり、「目に見えて」は本来、原因を表すが、メトニミーによって結果の意味も表せるということである。

なお、上記の「頭を抱える」等の表現も、原因と結果の関係が関与しているとも考えられる。つまり、何らかの精神状態と何らかの動作が同時に生じることに加え、ある精神状態が原因となって、ある動作をするという結果が生じるということである。ただし、「目に見えて」と「頭を抱える」等が異なるのは、前者は、本来、原因を表す表現で結果を表すのに対して、後者は、本来、結果を表す表現で原因を表すという点である。

続いて、フレーム（に基づくメトニミー）の考え方について確認する。まず、Fillmore (1982), Fillmore and Baker (2007) 等を踏まえて、フレームを以下のように定義する。

フレーム：日常の経験を一般化することによって身につけた、複数の要素が統合された知識の型。(舩山 (2010: 86))

さらに、西村 (2008: 80-81) は、言語表現の基盤としてのフレームの重要性に注目し、「与えられた言語表現の意味の成立に直接関与する百科事典的な(多くの場合コンテクストに依存する)知識のまとまりのことをフレーム (frame) と呼ぶことにする」と述べている。加えて、西村 (2008: 82) は、フレームに基づき、メトニミー (換喩) を以下のように定義している。⁽³⁾

(b) 換喩は、ある言語表現の複数の用法が、単一の共有フレームを喚起しつつ、そのフレーム内の互いに異なる局面ないし段階を焦点化する現象として定義することができるであろう。

メトニミーに対するこのような定義に基づき説明できる言語現象として西村が挙げている数多くの例の中から、1つだけ紹介する。

1 a パイプにゴミが詰まっている。

b パイプが詰まっている。⁽⁴⁾

この例文について、西村（2008: 85）は以下のように説明している。

1のいずれの用法においても、「詰まる」は[I〈流体等を通す管を移動中のものが途中で移動しなくなる〉……>II〈管が流体等を通しにくくなる〉]というフレームを活性化するが、このフレームの中で、aでは〈ものの移動停止〉が、bでは〈管の機能不全〉がそれぞれ焦点化されているために、前者では移動の主体であるゴミが、後者では状態変化の主体であるパイプが、それぞれ主語として表現されていると考えることができる。

少し補足説明をする。上記(b)の西村のメトニミー(換喩)の定義および例1の説明からわかるように、西村のメトニミーの考え方は、簡略に言えば、フレーム内の異なる要素・局面を焦点化するということである。ただし、メトニミーの定義(a)と(b)は密接な関係にあると考えられる。まず、フレーム内の複数の要素・局面は、1つの同じフレームを構成することから、何らかの関係にあることが予想される。そして、複数の要素・局面のうちの2つだけに注目し、その2つの関係が満たすべき条件(つまり、隣接性あるいは関連性)を示しているのが、メトニミーの定義(a)であることになる。

3. 「かたい」の分析

本節では、「かたい」の7つの意味を記述し、メトニミーに基づく多義構造を示す。その際、まず、ある1つの意味から別の1つの意味への拡張に注目する段階では、メトニミーの定義(a)に基づく。つまり、問題にしている2つの意味について、同時生起あるいは原因・結果という関係にあることを認め、メトニミーに基づくことを示す。

さらに、7つの意味は、意味(1)～(5)と意味(1)、(6)、(7)という2つのグループに分けられることを示し(意味(1)はどちらのグループにも属する)、それぞれのグループの意味の基盤となるフレームを提案する。つまり、メトニミーの定義(b)に従い、意味(1)～(5)は1つのフレームを共有し、5つの意味は、フレーム内の異なる要素を焦点化したものとする。同様に、意味(1)、(6)、(7)は別の1つのフレームを共有し、3つの意味は、そのフレーム内の異なる要素を焦点化したものとする。

3.1. プロトタイプの意味

3.1.では、初山(1994)を踏まえて、「かたい」のプロトタイプの意味について確認する。⁽⁵⁾まず、国立国語研究所(西尾寅弥)[以下、「国研」と略記](1972: 413)にも「『かたい』はさまざまな物体のなかで、固体についてだけ言える性質である。流動体す

なわち液体や気体については、ふつうにはあり得ない性質である。」とあるとおり、「かたい」という性質を有するのは、固体・液体・気体の中で、〈固体〉だけである。⁽⁶⁾

2 ダイヤモンド／鉄はかたい。

3 この肉／パン／豆腐はかたい。

たとえば、例文2の「ダイヤモンド／鉄」、例文3の「肉／パン／豆腐」はもちろん固体である。

さて、ある固体について、「かたい」と言う場合、「手でさわる／押す」等、外部から〈力を加える〉ことが前提になる（視覚等に基づいて「かたい」と言う場合は、3.2.および3.3.で取り上げる）。さらに、力を加えた結果、相対的に強い〈抵抗感を感じさせる〉時に、その固体を「かたい」と言うと考えられる。⁽⁷⁾ このことを次の事例で確認する。

4 「腹にさわって下さい。腹を」

患者のほうが嬉しそうに医者に注文を出してくる。善之進は手を入れた。右腹部の固いしこりはまだ触感できたが、その形が幾分、縮小している感じがしないでもない。（遠藤周作『灯のうるむ頃』、p.195、講談社）

例4では、触れてみて、体の他の箇所よりも抵抗感が強い部分、すなわち「しこり」を「固い」⁽⁸⁾と描写しているわけである。

以上から、「かたい」のプロトタイプの意味をまとめると以下のようになる。

意味（1）（プロトタイプの意味）：〈ある固体が〉〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせるさま〉

この意味に集約できる「かたい」の用法（の1つ）として、以下の例に基づき、「体がかたい」という言い方について見てみよう。

5 誰でも年とともに体が固くなりますが、若いときは固さが違います。若いときは筋肉が固いために体が固いことが多いのですが、高齢になると体幹の関節がこわばり固くなるのです。（『週刊朝日』2012年9月7日、聞蔵Ⅱビジュアル）

まず、この例における「体」は、筋肉や関節等の「人間の身体のある部分」と考えられるが、「人間の身体のある部分」は〈固体〉の一種である。また、「体が固い」とは、「自身あるいは他者が、身体のある部分を曲げようとする力を加えた場合に、容易に曲がらない」ということである。なお、2～4の「かたい」の例での〈加えられる力〉は、いずれも、問題の〈固体〉に対して外部から〈加えられる力〉であったが、「体が固い」における〈加えられる力〉である「身体のある部分を曲げようとする力」は、その力が自分自身によるものである場合も、他者によるものである場合もある。さらに、「（身体のある部分が）容易に曲がらない」とは、「曲げようとする力」に対して〈抵抗感を感じさせる〉ということである。

以上のように、「体がかたい」という場合の「かたい」も、「かたい」のプロトタイプの意味である〈ある固体が〉〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせるさま〉に集約できることになる。

3.2. 「緊張状態等の平常心ではない心理状態」のフレームに基づく意味の拡張

3.2. では、プロトタイプの意味とは異なる「かたい」の意味を取り上げる。特に、おおよそ「緊張(すること)」を表す「(面接で)かたくなる」、緊張等が原因で生じる「かたい表情」「動きがかたい」「かたい声」等の表現に注目する。

3.2.1. 心理状態を表す「かたい」

まず、次の例を見てみよう。

6 この日も緊張で体が固かったが、一つ自信があった。(『朝日新聞』(朝刊)2008年10月26日、聞蔵Ⅱビジュアル)

この例の「体が固かった」における「固い」は、プロトタイプの意味の「かたい」である。ただし、「体が固かった」ことの原因は、「緊張」という心理状態である。

7 地元や学校の演奏会には慣れている佐賀大付属の部員たちだが、この日は特別に緊張していた。

本番直前、指揮の今村志保教諭は「大丈夫、大丈夫」と気持ちを込めて、固くなった部員たちに小さく手を振った。そんな先生の姿を見て笑顔を取り戻した凌楽々さん(6年)。演奏後「先生をみたら安心して気持ちよく歌えました」と振り返った。(『朝日新聞』(朝刊)2012年9月16日、聞蔵Ⅱビジュアル)

この例の「固く(なった)」は、先行する「この日は特別に緊張していた」における「緊張(していた)」とはほぼ同じ意味を表している。つまり、ここでは、「固い(固くなる)」自体が、〈心理的に緊張した状態(になる)〉という意味を表していることになる。⁽⁹⁾

8 「柳原君、こうして昼食を食べながら話そうというんだから、何もそう硬くならなくていいよ」

柳原の気持を解きほぐすように云った。(山崎豊子『白い巨塔』(下)、p.333、新潮文庫)

この例では、「硬くならなくていいよ」に続いて「気持を解きほぐすように云った」とある。つまり、「硬く(なる)」が、〈心理的に緊張した状態〉を表しているからこそ、「気持を解きほぐす」必要があるわけである。以上から、「かたい」には、以下の意味もあることになる。⁽¹⁰⁾

意味(2)：〈心理的に緊張した状態であるさま〉

なお、「かたい」という語が〈心理的に緊張した状態であるさま〉も表せるのは、例7と8からもわかるように、〈心理的に緊張した状態〉と「体がかたい」ことが同時に生じる、さらに言えば、〈心理的に緊張した状態〉が原因となって「体がかたくなる」という結果が生じるというメトニミーの基盤が認められるからである。つまり、ある心理状態とある身体的状態が同時に生じる、あるいは、ある心理状態が原因で、ある身体的状態が結果として生じることに基づき、本来、身体的状態等の固体の状態を表す「かたい」という語が、心理的状态も表せるわけである。

3.2.2. 視覚に基づく「かたい」：「かたい表情／動き」

まず、次の例を見てみよう。

9 22歳の乾にとって、3度目の世界選手権で初めてのソロだった。12時間前の予選は、大舞台の緊張から、硬い表情とぎこちない動きになった。予想外の低い得点に「正直、悔しい」。声は消え入りそうだった。（『朝日新聞』（朝刊）2013年7月22日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例は、シンクロナイズド・スイミングの選手に関するものであるが、「緊張から、硬い表情……になった」という表現からもわかるように、「緊張」が原因で、（体がかたくなるだけでなく）「硬い表情」というある種の表情になる場合もあることになる。つまり、「かたい」で表すことができる〈心理的に緊張した状態〉とその種の心理状態が現れた表情が同時に生じることから、そのような表情に対してもメトニミーによって「かたい」という語で表せるわけである。以上から、「かたい」という語には、「心理的に緊張した状態が表情に現れているさま」という意味も認められることになる。

ただし、「かたい表情」の原因となる心理状態は、「緊張」に限らない。

10 アフリカ・ソマリア沖で海上自衛隊が海賊対策の任務につく。（中略）海外での初めての武器使用に直面する可能性もあり、家族らは無事を祈って隊員らを見送った。（中略）

見送りに集まった隊員の家族たちは不安をぬぐえない。

「正直言って行かせたくない。不安でいっぱいです」。さざなみに乗る2等海曹(34)の妻は、父親に抱き付く小学1年と幼稚園に通う娘2人の姿を見つめながら硬い表情。（『朝日新聞』（夕刊）2009年3月14日、聞蔵Ⅱビジュアル）

例10における「硬い表情」の原因は、例文中の「不安をぬぐえない」「不安でいっぱい」という表現からもわかるように、「緊張」というよりも、「不安」である。つまり、この場合の「硬い（表情）」は、「心理的に不安を抱えた状態が表情に現れているさま」という意味である。さらに、次の例を見てみよう。

11 札幌市から北へ約200キロ。日本海に面した初山別（しょさんべつ）村の村長は、

11 回連続で無投票で決まった。(中略)

この日、選挙カーは村内を一巡。宮本氏は6カ所で街頭演説をした。立候補の届け出は他になく、無投票で3選が決まった。宮本氏は硬い表情で語った。「村を回って人口減少に危機感を改めて感じた。投票の機会がなかった分、住民と話す機会を増やさなければ」(『朝日新聞』(朝刊)2015年4月22日、聞蔵Ⅱビジュアル)

この例では、「村を回って人口減少に危機感を改めて感じた」という箇所から、宮本氏は、村の人口減少を「深刻」だと感じていることがわかる。つまり、この例では、「ある事態を深刻だと捉えている心理状態が表情に現れているさま」を表すのに、「硬い(表情)」と言っているわけである。

以上、「かたい」という語が、「かたい表情」という視覚に基づいて用いられる場合について見てきた。特に、どのような心理状態が原因で「かたい表情」が生じるのかに注目した。その結果、「緊張した心理状態」「不安を抱えた心理状態」「ある事態を深刻だと捉えている心理状態」が原因で「かたい表情」になることがわかった。以上から、このような「かたい」の意味は以下のようにまとめることができるだろう。

意味(3):〈緊張状態等の平常心ではない心理状態が〉〈表情に現れているさま〉

続いて、「動きがかたい」という、やはり視覚に基づく「かたい」を検討する。

12 土佐塾の選手は1年ばかりの10人。全員、中学で野球経験があるが、部として初の公式戦を緊張して迎えた。

「いつもより動きがかたいな」。試合前のアップを見て、友永和弘監督はそう感じた。(『朝日新聞』(朝刊)2012年9月16日、聞蔵Ⅱビジュアル)

「部として初の公式戦を緊張して迎えた」部員の「試合前のアップを見て」、監督が「動きがかたい」と述べている。つまり、監督が選手の様子を視覚で捉えて、緊張が原因で(筋肉や関節が柔軟性を欠き)、動きに滑らかさが無いことを「動きがかたい」と表現していると考えられる。このような表現が可能であるのは、「心理的に緊張した状態」が原因で、「動きに滑らかさが無い」という結果が生じるというメトニミーの基盤があることによる。つまり、〈心理的に緊張した状態〉という意味を持つ「かたい」という語が、メトニミーによって、〈動きに滑らかさが無い〉という意味も表すことができるわけである。この意味は、以下のようにまとめられる。

意味(4):〈緊張した心理状態が原因で〉〈動きに滑らかさが無いさま〉

3.2.3. 聴覚に基づく「かたい」：「かたい声」

まず、以下の例を見てみよう。

- 13 つい緊張のあまり声が硬くなったり、ぼそぼそお通夜みたいに暗い声で喋りがちですが、あなただって自分の部屋を誰かシェアする場合、そんな暗い声で電話かかってきたらイヤでしょう？（『筑波ウェブコーパス』（NINJAL-LWP for TWC））

例13の「緊張のあまり声が硬くなったり」という箇所からわかるように、「緊張」が原因で、何らかの特徴的な声の状態になることを、「(声が)硬くなる」と表現することもできるわけである。つまり、「緊張」が原因で、何らかの特徴的な声の状態という結果になるというメトニミーの基盤があるため、「かたい」という語は、「緊張した心理状態が声に現れているさま」も表せることになる。また、この場合の「かたい」は、「声」に関することであるから、これまで見てきた触覚あるいは視覚に基づく「かたい」とは異なり、聴覚に基づくものである。

- 14 所用があって新幹線の「のぞみ」に乗ると窓側の席で女の子が分厚い本を熱心に読んでいました。（中略）

この頃、列車の中ではゲームを楽しむ子や漫画本を読む子が多いので、席にもどった子に思わず「ひとり？」と声をかけてしまいました。知らない人の言葉に用心したのでしょう。女の子は硬い声で「はい」と言いました。（『朝日新聞』（朝刊）2012年4月18日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例でも「硬い声」とあるが、この場合の「硬い声」の原因は、「知らない人の言葉に用心したのしょう」という記述からもわかるように、「緊張」というよりも、「不安」あるいは「心配」という心理状態であると考えられる。

- 15 末期の肺がんでの再入院だった。（中略）「余裕のあるうちに」と、喪服の準備に近くのデパートまで姉と出かけたのだ。（中略）

ところが買い物の途中で胸騒ぎがする。公衆電話に急ぐと「早く戻って」と看護師の固い声が返ってきた。容体の急変は駅から走っても、走っても、待ってくれない。母は還暦を迎えたばかりだった。（『朝日新聞』（朝刊）2003年2月9日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例での「固い声」の原因は、「緊張」とも「不安」ともずれがあり、むしろ、ある事態を「深刻」あるいは「重大」だと捉えている心理状態だと考えられる。この例に即して言えば、「入院患者の容体の急変」という事態を、看護師が深刻あるいは重大だと捉えているという心理状態が原因で、「固い声」が発せられているわけである。なお、看護師にとっては、患者の危篤状態という事態は日常茶飯事のことであり、実際には、深刻あるいは重大だと感じていない可能性もある。ただし、そのような場合も、患者の身内の人にとっては深刻なことだという判断に基づき、深刻に思っていることを装って、「固

い声」を発していると考えられる。

以上、「かたい」という語が、「かたい声」のように、聴覚で捉えられる場合について見てきた。特に、どのような心理状態が原因で「かたい声」になるのかに注目した。その結果、視覚で捉えられる「かたい表情」の場合と同様に、「緊張した心理状態」「不安を抱えた心理状態」「ある事態を深刻だと捉えている心理状態」が原因で「かたい声」になることがわかった。以上から、このような「かたい」の意味は以下のようにまとめることができる。⁽¹¹⁾

意味（5）：〈緊張状態等の平常心ではない心理状態が〉〈声に現れているさま〉

3.2.4. 意味拡張の基盤：メトニミーとフレーム

以下に、これまで見てきた意味（1）～（5）をまとめて示す。

意味（1）（プロトタイプの意味）：〈ある固体が〉〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を
感じさせるさま〉

意味（2）：〈心理的に緊張した状態であるさま〉

意味（3）：〈緊張状態等の平常心ではない心理状態が〉〈表情に現れているさま〉

意味（4）：〈緊張した心理状態が原因で〉〈動きに滑らかさがないさま〉

意味（5）：〈緊張状態等の平常心ではない心理状態が〉〈声に現れているさま〉

あらためて確認すると、意味（2）と（4）は、「緊張」という心理状態に限定されるのに対して、意味（3）と（5）の〈緊張状態等の平常心ではない心理状態〉には、「緊張」の他に、「不安」「深刻」という心理状態も含まれる。

以下では、意味（1）～（5）のメトニミーに基づく相互関係を確認すると共に、5つの意味の基盤を成し、5つの意味を統合するフレームについて考える。

まず、意味（2）は、意味（1）と同時に生じることに基づき意味拡張したものである。つまり、〈心理的に緊張した状態であるさま〉と「体がカタイ」⁽¹²⁾ことが同時に生じることに基づくものである。加えて、意味（2）と意味（1）が原因と結果の関係であることも、意味（2）の成立の基盤になっていると考えられる。さらに言えば、ここでは、「かたい」という語が、触覚に基づく意味（1）から心理状態を表す意味（2）に拡張しているわけである。

次に、意味（3）、（4）、（5）は、いずれも意味（2）から拡張したものである。また、これらの意味拡張の基盤は、基本的に、意味（1）から意味（2）への拡張と同様であり、各々2つの意味の同時性、あるいは原因と結果の関係に基づくものである。な

お、意味（3）、（4）の場合は、心理状態を表す意味（2）から、視覚に基づく意味に拡張しているのに対して、意味（5）の場合は、聴覚に基づく意味に拡張しているわけである。

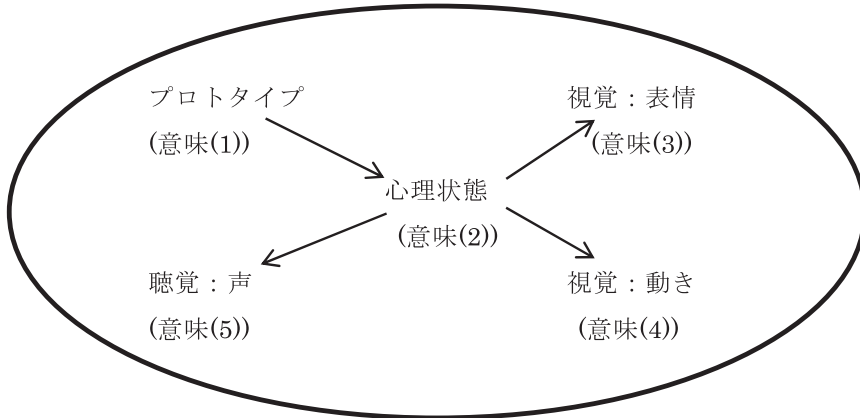
続いて、フレームの観点から、5つの意味について考える。我々が経験的に身につけていると考えられる、5つの意味の基盤を成すフレームとして、以下のものを提案する。

「緊張状態等の平常心ではない心理状態」のフレーム

「緊張状態等の平常心ではない心理状態」（意味（2））の場合、その心理状態の影響で「身体的にカタクなる」（意味（1））と共に「動きが滑らかでなくなり」（意味（4））、「その心理状態が現れた表情」（意味（3））となり、「その心理状態が現れた声」（意味（5））になる場合がある。

以上から、「かたい」という語は、「緊張状態等の平常心ではない心理状態」のフレームを構成する意味（1）～（5）に相当する5つの要素のいずれかを焦点化すると記述でき、メトニミーに基づく個々の意味拡張も含めて図示すると以下ようになる。

図1



3.3. 「かたいもの」のフレームに基づく意味の拡張

3.3. では、「カタイもの」が有する視覚的特徴を表す「かたい線」、「カタイもの」同士が接触する際に発せられる音である「かたい音」に注目する。

3.3.1. 視覚に基づく「かたい」：「かたい線」

まず、国研（1972: 427）に「線について『かたい』と感じられ、表わされるのは、そ

の線が直線的でまるみの乏しい場合、その線がくっきりと強い場合、などであろう」（下線は引用者）という記述があり、「雪のある山並の堅い線が見えた」という事例が示されている。⁽¹³⁾ さらに、以下の事例を見てみよう。

16 田村と小野川が並び、その後にカメラマンの矢崎がかたいの線を見せて坐っている。（城山三郎「飛行計画変更せず」、『飛行計画変更せず』所収、p.14、角川文庫）
例16の「かたい頬の線」における「かたい」も（丸みがなく）直線的であることを表していると考えられ、この種の「かたい」の意味は以下のように記述できるだろう。

意味（6）：〈固体が〉〈直線的な輪郭を持つさま〉

「かたい」のこのような意味の基盤として、「（触覚的に）カタイもの」には、直線的な輪郭を有するという視覚的特徴が認められる場合があるということが考えられる。⁽¹⁴⁾ つまり、ある種の固体に関して、〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉という触覚的特徴と〈直線的な輪郭を持つ〉という視覚的特徴が同時に認められる場合があるというメトニミーの基盤があるため、「かたい」という語は〈固体が〉〈直線的な輪郭を持つさま〉という意味も表せるわけである。

17 この夏、子供が主役のファッションショーが、香川県丸亀市と東京で相次いで開かれた。（中略）

子供たちの発想は多彩だ。（中略）善通寺市の小学校二年生、山崎有理ちゃん（七つ）は、四人で段ボールを切り抜いたドレスを作った。一見よろいのような固いラインが、かえってあどけなさを引き立たせている。（『朝日新聞』（朝刊）1997年8月24日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例の「よろいのような固いライン」における「固い」も、「よろいのような」とあることから、「ドレス」が複数の直線的なラインから構成されていると考えられ、（全体として）〈直線的な輪郭を持つさま〉に相当すると言っていいたいだろう。

3.3.2. 聴覚に基づく「かたい」：「かたい音」

まず、以下の例を見てみよう。

18 壁一面に並んだ小指の先ほどの活字。ピンセットで一つ一つ拾うと、金属が触れあかすかな硬い音が聞こえた。（『朝日新聞』（朝刊）2013年11月6日、聞蔵Ⅱビジュアル）

この例では、「金属（製の活字）が触れ合う」際に発せられる音を「硬い音」と表現している。つまり、「金属」という「（触覚的に）カタイもの」が、ある程度の勢いで接触するときに発せられる音も「かたい」という語で表すことができるということである。

このような「かたい」の意味を以下のように記述する。⁽¹⁵⁾

意味(7)〈(触覚的に)カタイもの同士が〉〈ある程度の勢いで接触するときに発せられる音の特徴〉

「かたい」が意味(7)も表せるのは、〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせる〉という触覚的特徴を有する固体は、そのような固体同士がある程度の勢いで接触するときに、特有の音を発するという聴覚的特徴を有する場合があることに基づいていると考えられる。つまり、ある種の固体に関して、触覚的特徴と聴覚的特徴の両方が同時に認められるというメトニミーの基盤に基づき、「かたい」という語は、意味(7)も有することになる。さらに、同様の意味を表す「かたい」の例を見てみよう。

19 下駄はカラコロと音がする。六〇年ごろ、日本住宅公団が出した「コンクリートアパートの住まい方」という小冊子では、廊下や階段では下駄の音に気を配るよう注意している。舗装道路が増えるにつれ、固い音が嫌われた。(『朝日新聞』(朝刊)1998年10月4日、聞蔵Ⅱビジュアル)

この例では、「下駄」というカタイものと、「コンクリートの廊下や階段」あるいは「(アスファルトの)舗装道路」というカタイものが接触するときに発せられる「カラコロ」という音に対して、「固い音」と表現している。この「かたい」も意味(7)であると考えて問題ないだろう。

3.3.3. 意味拡張の基盤：メトニミーとフレーム

以下に、3.3.で取り上げた意味(6)と(7)、さらには意味(1)をあらためて示す。

意味(1) (プロトタイプの意味):〈ある固体が〉〈加えられる力に対して〉〈抵抗感を感じさせるさま〉

意味(6):〈固体が〉〈直線的な輪郭を持つさま〉

意味(7):〈(触覚的に)カタイもの同士が〉〈ある程度の勢いで接触するときに発せられる音の特徴〉

以下では、意味(1)、(6)、(7)のメトニミーに基づく相互関係を確認すると共に、3つの意味の基盤を成し、3つの意味を統合するフレームについて考える。

まず、意味(6)は、意味(1)と同時に生じることに基づき意味拡張したものである。つまり、「カタイもの」は〈直線的な輪郭を持つ〉という場合があることに基づくものである。さらに言えば、「かたい」という語が、触覚に基づく意味(1)から視覚に基

づく意味（6）に拡張しているわけである。また、意味（7）は、「カタイもの」同士がある程度の勢いで接触するとき、特有の音を発する可能性があることに基づいていると考えられる。さらに言えば、「かたい」という語が、触覚に基づく意味（1）から聴覚に基づく意味（7）に拡張していることになる。

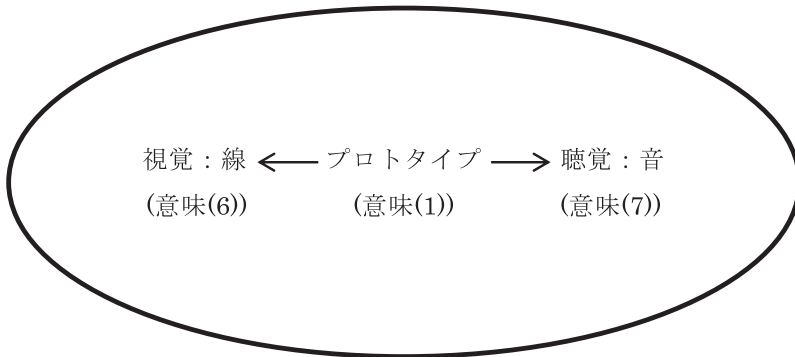
続いて、フレームの観点から、3つの意味について考える。我々が経験的に身につけていると考えられる、3つの意味の基盤を成すフレームとして、以下のものを提案する。

「かたいもの」のフレーム

「(触覚的に)カタイもの」(意味(1))は、「直線的な輪郭を持つ」(意味(6))という視覚的特徴が認められる場合があると共に、「カタイもの同士がある程度の勢いで接触すると、特徴的な音を発する」(意味(7))という聴覚的な特徴が認められる場合がある。

以上から、「かたい」という語は、「かたいもの」のフレームを構成する意味(1)、(6)、(7)に相当する3つの要素のいずれかを焦点化すると記述でき、メトニミーに基づく個々の意味拡張も含めて図示すると以下のようなになる。

図2



4. おわりに

本稿では、「かたい」という語の意味のうち、主に初山（1994）で（十分に）扱えなかった7つの意味を考察対象とし、まず、意味拡張はいずれもメトニミーに基づくことを明らかにした。また、7つの意味は2つのグループに分けられることを示し（プロトタイプの意味はどちらのグループにも属する）、それぞれのグループの意味の基盤となるフレームを提案した。さらに、各意味は、各フレーム内の異なる要素を焦点化したものと考えられることを示した。

今後の課題は、初山（1994）と本稿での「かたい」の分析を統合し、「かたい」の意味の包括的な多義構造を明らかにすることである。

注

- (1) 以下のメトニミーに関する記述は、主に初山（2010: 46-48）に基づくものである。
- (2) 本稿では、表現の意味（を構成する要素）を、〈 〉で括って示す。
- (3) 西村（2008）のメトニミーの考え方は、Croft（1993）による、メトニミーを、ある語のドメイン・マトリクス（domain matrix）において、1つのドメイン（におけるその語の概念のプロファイルのある面）を際立たせる（highlight）こととするという考え方と関連を有すると思われる。
- (4) 西村（2008）におけるこの2つの例文の番号は（20）である。
- (5) 3.1.で取り上げる「かたい」の意味を、「かたい」のプロトタイプの意味と判断する根拠については、初山（1994: 87-88）を参照。
- (6) 以下のような「硬い水」という表現もあるが、これは「硬水」と同じ意味に限定して使われていると思われる。なお、本文においても注においても、例文中の「かたい」に実線の下線を施し、「かたい」以外の注目すべき個所に点線の下線を施す。

日本では珍しい硬い水。酒の発酵を促すリンやカリウムなどのミネラル分が豊富で、それでいて酒を濁らす鉄分が少ない。（『朝日新聞』（夕刊）2014年3月29日、聞蔵Ⅱビジュアル）

- (7) 「かたい」と言える場合の力の加え方の制約については、初山（1994: 73-74）を参照。
- (8) 「かたい」の表記については、実例中の表現に言及する場合は実例のとおりとし、それ以外の場合は原則として「かたい」とする。なお、「カタイ」という表記については、注（12）を参照。
- (9) この意味では、通常「かたくなる」という形で使われる。
- (10) 国研（1972: 419）に『「かたくなる」という連語の形で、『楽な気持を失って、心身が緊張する』という意味を表わす』という記述がある。また、「緊張」に關係する意味は、『大辞林』（第三版）、『岩波国語辞典』（第七版）、『新明解国語辞典』（第七版）、『現代形容詞用法辞典』等にも記載されている。
- (11) 籠宮（2015）は、音声学の立場から、分節音、話し方（発話印象）、発声の仕方等について「硬い」「柔らかい」という聴覚的な印象について考察している。
- (12) 以下では、プロトタイプの意味の「かたい」を「カタイ」と表記する。
- (13) 「その線がくっきりと強い場合」にあたると思われる実例として以下のものがある。

HBの鉛筆の硬い線が、白いパネルに幾重にも重なっている。（『朝日新聞』（朝刊）2008年3月10日、聞蔵Ⅱビジュアル）

- (14) 「ボウリングの球」のように（サッカーボール等より）カタイが、直線的な形ではなく球形であるというものももちろんある。
- (15) 「かたい音」について、国研（1972: 427）に以下の記述がある。

資料内にはないが、「かたい音」という表現もあると思われる。それは、「かたい物体のふれ合うような音」というところからくるつながりもあるかもしれないが、音そのものの感じを独立的に「かたい」と形容することもあろう。それは、いわゆる金属的な音、比較的強く澄んだ音、はっきりとして余韻には乏しい音、のような場合にはなからうか。

引用文献

- 籠宮隆之 (2015) 「硬い声と柔らかい声——音声から来る硬軟の印象——」、『日本語学』34-1、pp.58-69、明治書院
- 国立国語研究所 (西尾寅弥) (1972) 『形容詞の意味・用法の記述的研究』、秀英出版
- 佐藤信夫 (1978) 『レトリック感覚』、講談社 (1992、講談社学術文庫)
- 西村義樹 (2008) 「換喩の認知言語学」、森雄一・西村義樹・山田進・米山三明 (編) 『ことばのダイナミズム』、pp.71-88、くろしお出版
- 初山洋介 (1994) 「形容詞『カタイ』の多義構造」、『名古屋大学 日本語・日本文化論集』2、pp.65-90、名古屋大学留学生センター
- 初山洋介 (2002) 『認知意味論のしくみ』、研究社
- 初山洋介 (2010) 『認知言語学入門』、研究社
- Croft, W. (1993) “The Role of Domains in the Interpretation of Metaphors and Metonymies.” *Cognitive Linguistics* 4-4.
- Fillmore, C. J. (1982) “Frame Semantics.” *Linguistics in the Morning Calm*. pp.111-137. Seoul: Hanshin Publishing.
- Fillmore, C. J. and C. Baker (2007) “A Frames Approach to Semantic Analysis.” Heine, B. and H. Narrog (eds.) *The Oxford Handbook of Linguistic Analysis*. pp.313-339. Oxford: Oxford University Press.

辞書類

- 西尾実他 (編) 『岩波国語辞典』(第七版)、岩波書店
- 飛田良文・浅田秀子 『現代形容詞用法辞典』、東京堂出版
- 松村明 (編) 『大辞林』(第三版)、三省堂
- 山田忠雄他 (編) 『新明解国語辞典』(第七版)、三省堂